これは何でしょう

答えについての思い出などもお待ちしています。

◪しめきり　2月14日(水)必着
◪あて先　〒783　南国市大埇甲二三〇一　南国市企画課親子クイズ係
◪賞品　正解者の中から抽選で5人の方に図書券を進呈

◎第285回親子クイズの答えは、リンゴでした。

第285回当選者発表（敬称略）
（応募総数35通）

橋本加奈子（大埇）
秋沢秀水（大埇）
十居秀子（十市）
上田佳代（緑ケ丘）
田村光枝（久礼田）

広場

操さんの形見わけ

ヨサコイ節のお馬さんといえば、皆さんご存知のことでしょう。そのお馬さんの孫、宮澤操さんとの交流を続けていた浜田信男さんが、交流の様子や思い出を書いてくれました。

拙品ですが、お送り致しましたので、御召し上がり下さい。同封致しましたタバコ入れは、母、操がいつも使って居りましたもので、御受納頂ければ、幸甚と存じます。（原文のまま）

文中の母、操とは、ヨサコイ節の中心人物、お馬さんの孫、宮澤操さんのことである。

平成七年も残すところ三日となっていた正午前に、東京都荒川区西尾久の、宮澤一永さん（お馬さんのひ孫）からの宅急便を私は受け取った。

中身はお菓子、文明堂の三笠山。私の好物だと知ってくれてたのではなかろうか。佃煮の瓶もあって、その間に紙に包まれたタバコ入れが――布で作られた、上品な柄のなかなか立派なものである。

手にして眺めていると、操さんの顔が浮かんできた――思い出せば、荒川西尾久の新築中の宮澤邸に、操さんを私が見舞ったのは、四年半ほど前のこと。

一部仕上がった二階の操さんの部屋で、お茶を出してくれた。あのときのお茶受けも文明堂の三笠山が……。操さんには持病があり、お年も九十歳。時々肩で大きく息をされていたが、思ったよりお元気で私もほっとした。いつの間にか、お茶がビールになっていた。「あなたのことは岩崎令子さん（グランドホテル鈴の社長）から聞いています」と操さんは言ってくれた。（岩崎さんの紹介は大きかったようだ）また、ご子息一永さんが私と同じ建設業の仲間なのも関係あって心許して付き合ってくれているのかもしれない。

あのとき「一枚写真を」と、カメラを向けると「写真は駄目！」と私をしかりつけるように言った。（操さんは九十歳――そうか）と、私なりに受けとめて、カメラをバッグに戻した。何を隠そう取材が目的の私だったから。

岩崎さんと私の出会い、五台山長江のお馬さんの生家、操さんが岩崎さんのホテルに贈ったカンザシと、とりとめのない話しをする私に「おばあちゃんは酒癖が悪かった」「菊おばさんが浅草で、汁粉屋をしていては『江戸前にぎり』だったが、腹も胸もいっぱいだった。

操さんは、女学校を卒業して すぐに、現在の荒川区役所に停年まで勤めた。荒川区役所では、初代の女性係長になられた人。部下のめんどうみもいい方だったという。

歳には勝てず、平成四年三月一日午後十一時十五分、苦しまずに眠られた、亡くなられた早朝「母は浜田さんを、大変気に入ってたのでお知らせします」の電話が、一永さんからあった。翌日の二日がお葬式。

法名は「菊徳院春香妙操信女」北区豊島の「西福寺」の寺内に宮澤家のお墓がある。すぐ右側にお馬さんの一族のお墓が、寄り添うように並んでいる。

タバコ入れは、小さいものの私にとっては大きな宝物。一永さんの思いやりに、感謝している。

浜田信男（立田）

思い出がいっぱい

◆昨年九月十六日に生まれた我が家の長男の昂幸は、いま三か月半。そろそろ具汁を飲ませていますが、初めて口にした果汁が「りんご」でした。おいしいでも、おいしくないでもなく（これは何だろう）という表情で「ごっくん」しました。とてもかわいらしくほほえましかったです。

◆町民運動会でりんごをくわえて走る競争があった時、私の前歯がなかったので、恥ずかしいのと早く走らないかん思っていたら、役員の人が「もうえいき手で取って走りや」と言って笑われた事が、今またこのりんごを見て思い出しています。

◆りんごは実より、白い花の咲く木が好きです。島崎藤村の『初恋』という詩を思い浮かべながら、白い花の咲いたりんごの木の下にたたずむのが、少女のころの私のあこがれでした。

◆昔、リンゴをかじる歯みがきのCMを見て、リンゴをかじって血が出るかどうかためした思い出があります。子供のころなので、血が出るより硬くてあごがはずれそうになりました。

みんなの

ロマンティックなホワイトクリスマス

十二月二十五日、クリスマスのこの日、南国市で久しぶりに雪が積もりました。

昼過ぎに降り出した雪は、見る間に積もり、屋根や田んぼはすっかり白色。

喜んだのは子どもたち。雪だるまを作ったり雪合戦をするなど、天からの思わぬプレゼントとなりました。